

マルチセンサ情報を統合した 漸次的避難所被害・機能評価手法の開発

社会防災研究領域 総合防災情報センター／防災情報研究部門 君嶋 里美

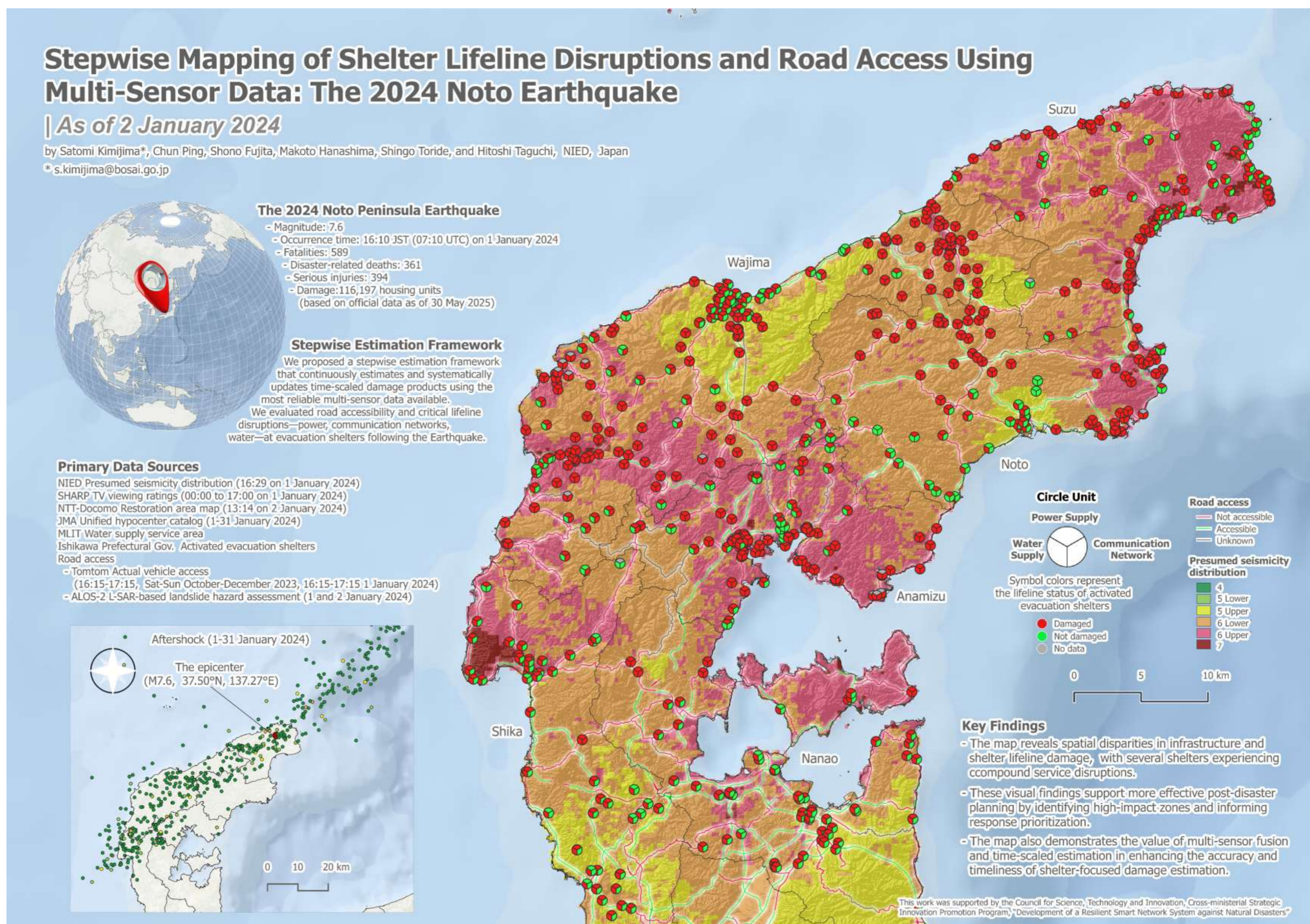
Point

- 避難所の運用可能性・機能性の迅速な把握は、効果的な災害対応の中核情報
- マルチセンサ情報を活用し、ハザード被害およびライフライン障害を漸次的に推定
- 発災直後から避難所被害・機能障害を準リアルタイムで段階的に更新・可視化

概要

大規模地震発生後、避難所の安全性や電力・通信・水道などのライフライン状況を迅速かつ継続的に把握することは、効果的な災害対応に不可欠です。しかし既存の被害推定手法は、地域単位の静的評価にとどまり、避難所単位での詳細かつ時系列的な

更新が難しいという課題があります。そこで本研究では、マルチセンサ情報を統合し、避難所のハザード被害とライフライン障害を段階的に更新する漸次的避難所被害・機能評価手法を開発しています。



今後の展望・方向性

今後は、避難所共通IDとの連携などを通じて提案手法の改善を進めるとともに、その汎用性の検証も行っていきます。さらに、地震による被害推定にとどま

らず、水害など他の災害種別へも適用範囲を拡張し、災害対応全体を支える動的な被害情報基盤の構築に向けて研究開発を推進します。

総合科学技術・イノベーション会議（CSTI）が主導するSIP第3期の課題「スマート防災ネットワークの構築」（研究推進法人：防災科研）におけるサブ課題A「災害情報の広域かつ瞬時把握・共有」（研究開発責任者：田口 仁）において2023～2027年度の期間で実施しています。

